

## 原子力利用に関する世論調査結果（2006～2015年度）に基づく 経年変化及び社会性価値観の視点での傾向分析

Trend analysis of the point of view of secular change and social values  
based on the poll results on the use of nuclear energy (2006-2015)

\*飯本武志<sup>1</sup>, 坂井識顕<sup>2</sup>, 川上和久<sup>3</sup>, 木村浩<sup>4</sup>, 富山雅之<sup>5</sup>, 高橋格<sup>2</sup>, 河崎由美子<sup>2</sup>, 船越誠<sup>2</sup>  
<sup>1</sup> 東京大学, <sup>2</sup> 日本原子力文化財団, <sup>3</sup> 国際医療福祉大学,  
<sup>4</sup> NPO 法人パブリック・アウトリーチ, <sup>5</sup> 台東区立御徒町台東中学校

原子力に対する世論は、事故や災害などの出来事があるごとに変動する傾向があるため、2006年度から全国規模の世論調査を経年的、定点的に実施し、原子力に関する世論の動向を把握する取り組みを進めてきた（調査対象：全国15～79歳男女個人（1200人）、サンプリング：住宅地図データベースから世帯を抽出し個人を割当、標本数の配分：200地点を地域・市郡規模別の各層に比例配分、手法：個別訪問留置調査）。

**キーワード**：世論調査、原子力利用、経年変化、社会性価値観

本調査で得られた知見を示すとともに、社会性価値観の視点を踏まえた情報発信のあり方を考察する。

**【原子力のイメージ】**「悪い」、「複雑」、「危険」、「信頼できない」、「不安」という否定的なイメージに傾くとともに「役に立つ」という肯定的なイメージも持っている。「必要」「不必要」については意見が分かれている。福島第一原発事故前後では、「信頼できない」と「不安」が増加、「必要」が減少。最も回答が多い「危険」は差が見られないため、事故前より「危険」と認識され、事故後もその認識は変化していない。

**【原子力やエネルギーへの関心】**突出して高い項目は、「地球温暖化」。次いで「放射線による人体の影響」、「原子力施設のリスク」、「放射性廃棄物の処分」。これらの項目は前年度に比べてポイントが増加しており、COP21や九州電力（株）川内原子力発電所の再稼働関連のニュースを受け、関心が高まったと推測される。

**【原子力利用に関する考え】**最も多い意見は、「原子力発電をしばらく利用するが、徐々に廃止していきべきだ」（47.9%）。次いで、「原子力発電は即時、廃止すべきだ」（14.8%）。一方で、原子力発電維持の意見は10%程度で、「わからない」は22.9%であった。前年度も同様な質問をしたが、大きな差は見られない。

**【原子力やエネルギーに関する日頃の情報源】**性別、年代問わず、「テレビ（ニュース）」が突出してポイントが高い。次いで「テレビ（情報番組）」、「新聞」と続く。「家族、友人、知人との会話」は、2割程度とポイントは高くないが、性別、年齢を問わず、原子力などの日頃の情報源として一定の割合を担っている。

**【社会性価値観の視点を踏まえた情報発信のあり方】**自治体や地域社会などのボランティア活動や地域の行事等への参加、選挙への投票など、「社会」に対して強く関わりを持とうとしている「社会性価値観が高い層」は、普段から原子力に対して関心を持ち、やや専門的な情報も積極的に入手しており、原子力に対するイメージなどに対し、肯定的、否定的の双方ではっきりとした意見を持っている傾向がある。また、マスメディア等からの情報の影響を多様に受けている可能性が高く、家族、友人等との会話によって、周囲へ影響を与える可能性も高い。そのため、今後、情報発信する際、性別や年代、職業だけでなく、地域のオピニオンリーダー的な役割を担う「社会性価値観が高い層」を意識して情報提供すべきと考える。

本調査は、（一財）日本原子力文化財団が（一財）電力中央研究所より委託を受け、有識者で構成された委員会で議論した結果を取りまとめている。2016年度も継続的に調査を実施し、経年変化の分析を行う。詳細な結果はホームページ上で公開されている。[http://www.jaero.or.jp/data/01jigyuu/tyousakenkyu\\_top.html](http://www.jaero.or.jp/data/01jigyuu/tyousakenkyu_top.html)

\*Takeshi Iimoto<sup>1</sup>, Noriaki Sakai<sup>2</sup>, Kazuhisa Kawakami<sup>3</sup>, Hiroshi Kimura<sup>4</sup>, Masayuki Tomiyama<sup>5</sup>, Itaru Takahashi<sup>2</sup>,  
Yumiko Kawasaki<sup>2</sup> and Makoto Funakoshi<sup>2</sup>

<sup>1</sup>Tokyo Univ., <sup>2</sup>JAERO, <sup>3</sup>International Univ. of Health and Welfare, <sup>4</sup>Public Outreach, Non-Profit., <sup>5</sup>Okachimachi-Taito JH School